



洪水と地震

自然災害は、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火などがありますが、ここでは洪水と地震についてみていきます。



流失寸前の藤掛橋 昭和9年、合口ダム付近

洪水

庄川の洪水は、古い記録では1406(応永13)年にさかのぼります。江戸時代には記録が残るだけでも139回、1868(明治元)年から最後の洪水といわれる1948(昭和23)年までの間は38回を数えます。とりわけ江戸時代以降では1772(明和9)年、1896(明治29)年、1934(昭和9)年の被害が大きかったといわれます。洪水は地震だけでなく、集中豪雨や雪どけ水が原因で発生することがあるので、避難施設やハザードマップを確認するなど日頃からの備えが必要です。

❗ 「砺波市洪水ハザードマップ」を検索して、自宅を確認してみよう！

地震

富山県では、過去に8回の地震が記録されています。

特に天正地震では、土石流によって庄川の川筋が現在の位置に変わりました。また、^{おたちまやかたあと}御館山館跡(砺波市高波)では、^{えきじょうかげんしょう}発掘調査で液状化現象・^{だんそう}断層・^{じわ}地割れといった地震の痕跡がみつかりました。年代測定の結果、10世紀、16世紀(天正地震)、19世紀(安政地震)の3度の地震の痕跡だとわかりました。砺波市では、過去に大地震が起こっていますし、地震を引き起こす活断層(砺波平野断層帯東部)が存在します。砺波地方でも地震は、決して遠い存在ではないのです。

❗ 「砺波市地震防災マップ(揺れやすまマップ)」を検索して自宅を確認してみよう！

庄川で発生した洪水の年表

発生西暦	発生和暦	出来事
1406	応永13	洪水により雄神川(庄川)の流路が変わる
1586	天正13	金屋の東の山が崩れ、川を堰き止め、20日後に流れ出た水で今の川筋ができる。
1772	明和9	雪どけ水で増水し、松川除を破壊。この時、元の千保川が本流となる。
1831	天保2	松川除が大破
1896	明治29	千保川に水が溢れ、下流の高岡市が大きな被害を受ける。
1934	昭和9	大雨で増水した水が堤防を5ヶ所破壊



富山県の活断層

(公益財団法人とやま国際センター「防災情報 富山」より) <http://www.tic-toyama.or.jp/bousai/saigai/saigai-01.html>



発生西暦	発生和暦	地震の名称(地域)	県内での主な被害	最大震度
863年7月10日	貞観5年	(越中・越後)	山崩れ、住宅損壊、圧死者多数	不明
1586年1月18日	天正13年	天正地震(東海・北陸地)	木舟城が崩壊、圧死者多数	5
1858年4月9日	安政5年	飛越地震(飛騨・越中・加賀・越前)	常願寺川の上流が堰き止められ、後に決壊して、死者140名、家屋倒壊及び流出1,612棟、旧大山町で山崩れにより死者36名	6
1891年10月28日	明治24年	濃尾地震	越中で家屋全壊2棟	4
1930年10月17日	昭和5年	(大聖寺付近)	高岡市で死者1名	5
1933年9月21日	昭和8年	(能登半島)	負傷者2名	4
2007年3月25日	平成19年	平成19年能登半島地震	負傷者13名	5弱
2007年7月16日	平成19年	平成19年新潟県中越沖地震	負傷者1名	3

富山県の地震年表

御館山館跡の発掘断面で見つかった地震痕跡

